源語志述草

春

目録

桐の花
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]の原
[illegible]橘花
[illegible]
[illegible]
次[illegible]
[illegible]
[illegible]屋

[illegible]

きつつき

いづれの御時にか女御こゝいとあまたさぶらひたまひけるなかにいと
やむごとなきにはあらぬがすべてときめきたまふありけり
かしこきかたのことにはあらでいとやむごとなきのこゝいやしく
ものゝ大なるこゝろにくからぬかたにてときめきたまふ
はじめよりおのれはと思ほしあがるかたこゝろあり
ものしたまふ御心おごりにやあらむとみえたまふ
をもまたいとりんわれなりとおもほしたれどもいとしたしくて
くらしたまふ大なるこゝろゆいこゝろにてこれがためにとこゝろ
御文つかはしたまふ使ひはいとまれにてしばしばなくて

御てらあひうえんぶつどうにてこうきてんの女御
をそしあまくこの女御こういそれこ御ひてくれくしきの
どもねしんぶしこうきてんとしよ八ぶたのむもめ御
へうひきさきしうしひくこそけれそこ一ぶえそ
きひを行へばをいかりくんやこ此こうきてんをバみかど
けくそこかこと行へばまてこういこ仏ろしうちをれ
物のこ思ひくをえつこひやこきくなこそきよ此こかど
いこあれくちかんぶはきこくそこのおれここいむされ
きこかくしがげんじや此そこうくめをきこ京御こ
こういれ日ころのひやこきをくなこうかこうのさかこく
行へばいこよこてきこへいそんこし行こみこなこう

きこ行行あて御りくのこれこかこそれバ
ここい

かぎうこてわこたのこうきこくいこ八命ここ
ここみきこてこうれせ御ひいこ御こ行こ行こ初く
ごきこのこうひれろくひこそこ初こうこ御こ八ゆる
けを行こ御げんじひ八をこうこをきこそこうこくこい
ぞうこ出行へばくくこけつこひりこよなるそこる
ほこをもくくおきこけつこひて書てこ行きこう
ものけこちうくるしこわこ行なみこくれけを
行こ御げんじもれいここれバさくこ出しこ行ひくこいれ
こそこくこあづま行をこうこのこのこひこ行ハ

ゆるみがれいるげうこそてちりてさを行て
風あしくしてタくれゆけいのそ梅いよ女をこ
いのそそめて御使ハ行る御せい
えぎめ紙ちらしまど風のをそこそうぐりしいそ
やれ今ゝどそをいろゝゆうそてげんじの御そこい
ゝこそてうるくこいのてだれ紙ひしうをこがどそて
ゝそそえゝそてうくやてこかぶいそこえんれを
げしいれらんでき紙をれわれをうかしこ紙ひし
げんそゝめなげきく紙こうこ紙ゆるふくそれくさ
おうしゝこ今ぬそそのおうへゝそ戸はるれらん
をれば

ゆきぬ風をそしげのれゝうふそうがくそこう
ちうなうこ今ぬそ君ひゝてくなそぶん
せさをれどそゝしうなさ人のあうをばわてれてうへう
しそうしめんげゝなそ思そくれゝうほくを
紙ひくみうど
きうぬゆきぬうゝしうそそそ五月あうをうこ
とゝうくとうをそそ五月あうをうこ
ア人ゝうそ紙ゆ月をゆるまくびうをんくを
ううをいうを紙ゆ七うを紙へ紙ゆそうかせうまを
なくゆをさくうかゝてゝ井を紙
うゝ紙ゆそゝ今ゝうそゝ今ゝうそゝ今ゝうそゝ今ゝうそゝ今ゝうそゝ

げんじのさいしきけもなくばかりてあれどのれうしろ
こせをきりてんらしれどうあんとそしれいさき
せんとおぼもさまゝあんげんじのれうらびをそをること
とみぢきしこう月ゐれどこういのすわれをなをそふ
うるものしうをときをれをなをせんていのこれをとくれ
をとをなとないしれをけしいとををそしれいはあと
のいろうぶのえをおをきをくけ入日ををなをうち
つぶれ世間しいあやしきさをこうにをなをくば
けいなしなをむやをくあぼをのけいがひげをを
あくうはなをくけをてりげんじ十二わてけげんじ
をきんじのをいをなをいてをくをくあをれ中れ

をなをうをなをれげんゆくのをうれををれをれ
をあれれあをのきをれをくはみをの河いををあう
れれををくらんどれれをれをれをれをれをれをれ
をををうをれをれをれをれをれをれをれをれをれ
ねをようはををををはげんゆくのをれをれをれを
げんじわをうをあをれをれをれをれをれをれをれ
ををげんとはいををこをうをうをのをくをを
をうのれあれやげんじのをれをれをれをれをれ
をいをををうをあをはいをれをれをれをれをれ
げんじをんじををををれをれをれをれをれをれ
ををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四とせとかへりこうさんとそひてくしをつれたり
しほくいくこひをゑてそうかくなりぬ又をめちうよ
ゑ世ふうちもうこうこうこうこうふしひきやうしきくいをん
れどゆうきんふをくとハくぼをうをうをうしこある
てんと人世のいてをりうえひうくれがうちうるも女
こうえびあハをそうこうなどこうこうかはこれがこそとひうと
れてうれうこうかうきこうかそるひつこうこうめれ
かうこうかこうの到てみてをしくくなはを
ゆをていと中れををれをんるむをくなどあをれ女し
久しくこハうしうこをれうこうものこれうれがうそ
これをみをれてかくいひをこ移つと

山うれかうほうこうこうあれをひこうでこの森
うれち中れかりれいとめうひうをれこうくしく
うむるるしれうこうしほこくいやれうて又こうきくし
ほこうあこうこうこうくハうこをえくびむをそ
あんくれハいそうめこうこうこうこうこれを多れ
こうこれもをひこうこうこうこうひつこうこうこうふのをこうくる
ををのかくく物こうひくこうこうれうしれむをを
ちくれうこうくいひこうくくこうくむをくるくれる女
わくこを人をこうこうこうこうこれこうこれうれるむをいのれ
こハをつうこを女こうれうき女をれ作書を四こうこう
べるくこうひうくくこうこうこうこうこうこうはどく

きちうの御くげ[illegible]あうじと物うしや仰せられ[illegible]
女とくみ[illegible]ひ[illegible]ぐ[illegible]
ぬ[illegible]ば御[illegible]の[illegible]
[illegible]
わ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
をなじ[illegible]
[illegible]御けわんのみき[illegible]
おいさんとてきのこひ[illegible]
いよのかがい[illegible]
[illegible]

そ[illegible]一やのすなれば[illegible]
[illegible]
[illegible]

みちのくにいよのかみ　ハ　ハ　ハ

神ゝれば
はねもかとく
ぶ出るいたきこゝ
ゝ
ゝ

ままてはいハるげん

うつそみのをとてはなるこゝろとなく世人のうつ
かしきうれひかしうつそ
うきよをそなくゝ病のこゝろにてうのびくゝわつ
そうれといせがしのてしくあるうくひうてきそ
けれうあつくしくゝとゝいづるうかつりしきこうがうひ
出せばこそよるさくさるや

タクなかそれ

きつねのふかどゝ御をとゝとゝ考文あくかゝれさせ
ひしひしげんぞうとゝもそのゝ文をもひつゝ考

もうれひてやもうあそこだこくもそ行へうそれげんよ
こゝ好ふれ六でゝわうの御とこの言あうきのれいそゝきくく
かきうげんのれわのゝい大二のあれゝいゝけちのゝれ
こうゝいゝげんのれ生うあくゝをうてつゝこのちの
しれりくわゝ動てあゝくなりしれこでゝのれいそゝ
げんゝうひくきちうれて御ゝうゝいうゝびあく
るゝゝ大ゝうくうゝそゝくゝ行ゝくめのゝがゝ乃ゝうゝく
動ゝうゝなゝゝあゝくゝこれわゝゝうゝうゝ花ゝゝゝかく
ゝとゝもゝゝうゝくわゝくゝくわゝゝくゝゝゝゝゝゝれう
なのうくゝゝいゝれうものゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あれハ仏の花ゝ一ゝゝうゝゝゝれゝれくハゝゝゝゝゝ

きれもとまるとく所ゝ
ゝ所ゝあるゝゝびもゝ生ゝ
ぐゝゝゝゝゝぐゝゝれゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

それからそのみるなかにめをとめて出さうとしたのちこれうく
さいうくなりてくることをうけんがてこのひそさくばげん
しともなりあるがしかもあるくはちばそれしも
ちてきこえ出さぬ御ひげしのこちるくあやうさい
くわうあるが八月十四やわしいくさくもうかるが今月
なるを月かげいくなのそうくうりうこうれるが
ぬるこころをもつてくあるのもくごうく
とあるうこうしかしうれをもきこうの
あるはうくくくるるとなるさをはひくタがうし
つうくうこんとしてあるをわうきのせげんしとあひのうが
ひくうのあうちうくくうのわんおうしてるをを

かしいそあるさるくくあるくくあるくくあ

りなどいかしひときはてらはゆんさうし女の
おもてげをうつくしうせぬ夕ぐれいとこうしはどな
よくうつくしてあるひえうさうそうそうとうつくしく
みれば三れうの夕ぐれのこゑいかうかしましうてうつる
ものをわがうつくしきれば三れうのあくに
生ものいとはかはかりいとかなるとてもうつくしこれ
九月ばかりの八日の日ぐれのそれいしうしんいきとうつう
なげきうしはうしうんをうしてつらいうあく
あくをしそうそうはくこのれ中れの御むすめあるはう
おやうちうちうあはひてかそうなるていあるをしび

うきれ中れあるうしびちはしうれきうあくあるて人
づてうく色しうしうしげなるはいをははをれうう
立てあるの京れのとれうのとれうくかれて松をしびれうし
をうをうしはは立ていきうきうつうろんをせさははうさめのと
のくうしはうをうくうるかくみれがかくうくのそのうく
これうはうをれとなうのくさはをはひしとかるうさてハ
うをうれまうくのうれうれ中れのううしく人く
てそとはうれうれはれくくなうく人をなうくうと
をうれはくはうくをうくうひうをうはうとかをる
はれうはけきうをうをしををうれはくはうはうね
いよのみとなうはいようのはうはうれうをうれをうく人をうて

こゝろびろきをうらやましにしのはるくとしくれもけが
むきあるくのれをしてんと人をしるくれさるひげきう
をもしかねるあるしとおもをんをのはをなのそをんせしこと
ほのてまれるうとこてせんるかしれいくゝ御文はいはる
かなかしれきものをぐひむしはいはでゆのうこひをうかを
ふしはいをうくうこれめひのうをれをきとしてげんひきこ
りてたはそれバタはのるすハをてねどいうくとおほはなく
てうをきうしゝ御をもひくうくうどをてをこをとう
九月つごろうくいとれかをくをばさひいうをこひし
ひきふてゆくげんハタのかれをれをくをうをこをく
くるひをひ〳〵いるうしてをるひけをくうをみうを

はるかされしくのうをこのまをこをををるひれて
くへりはひしむをれこををを今をくはををけ
あををのかをををうをみーをををひくをををれをう
くをうををををてはるハをれしくの

まりをしをき

げんをうひわをひはひくいうくくををををををををど
をちばをくふをうをふををををををををををををををを
をはをはをを人をををしうばををうはをををををををを
むうのををしををををハをんをして
御をれをくををををををををををををををををををを

ひとりをいんとてまじなハさせけれハ
さんとて人ぐいろ〳〵ぬをもしとるあらしの人ハ
かしぐるもとうつとりをしかしこうこうをの
ゑもぐきをぐかしーうくしてきくらげ
のでしぬそ〳〵づのをくぐそ〳〵ぐ
れぐ〳〵をバタぐれのかどをこれをうをぐ
うをくうぬぐをぬくバつをををなるをけうをぬくく
きをゝびををくくなやかしげをそうしくるぎくらげ
二人をうねハをハそ出人ををのをくをバうかど
をやゝんいをうくをきくをくくをかくハゆくくあるぐ
をうげをんやをうををあくをうかををををて

わるかのをのををくくるくなふるいをくををかをくハぬ
ぎくをくをくハをぐのをいかぐをくをけをあ
ををれわをれねけいかのをつかくをくををくれ
なんをきくをかくをくをよしをのでしをくをつけん
をうをくく〳〵入御いわをうなををいをくををを
ハをくれ人ををくををくをくをををあるハ
をくくをかをくをををつ大をんのをけくかくをを
一人をもかくをくをのをををををくをををををを
きかくをくをかをををををををををををををを
をくをくをあをくをををををををををををををを
いをくのををかくをくをくをををををををををを

うくはりぶちひゝぶくのえとぶぶくのぶぶ
のをめくひきをうくいめいをうきれぶこそもふとりり
なれいうもてもひれくぶのまこおいそんとれぼて、
あるんぶをいめんをどしてあるんとれくまどいかぶきを
をうひがこんぶ行ぶ女のるをむきをしうこきをむ又
知のゆうひむひきこのゆうとうこ今のうこり
むきれの一りゆくこむちゆ来いるめぶあれとぶ
ふをこ人をうぶのゆうるればなるくてげん
てこうそろしもみんむちゆれねるかひをゆ（のわぶき
とをはひうむきこのとしこをろぶはかり
なやこはひくさくこはくのをりわこはねる中ぶち

をるこうぶをしく女ひせんはいぶきをかりんちか
はをくはひゆまをれるもてえはうてあひをかをじん
かれどをやれくのやくをうてかをう山御ぶちはをん
れれをちしひきこのうれぶをはやりよかるくはい
くうはをうむきこのこはちのくをこはうしうくして、
京のひくかうくつをれ御ちひをくぶのををひくん
くれくきひきはひくひげんしちえくひはりぐ何かと
いくむつかんをひてはそんとおばしてあそちえ、
わうはをといまくれよのあうはをくげんおりてうあく
うちれはてがつうはをめのくをばかなをごんとしをこはふを
をぶれどきへをひがをげんもあをれまひなをくとし

そりげんれいいとこまでれんぜんにおいてかきあ
まりぶりもそのかくしかぶりをしかぶりてやん
うきてなしひなどをしへおりげん

ねんぶつのあらけるをきれ
ゆうぜんとうきおりて元もうるくおりてきるくだらくえて
ぶとをぶりぶりそのおくばびきるのと
かたつづうゆびてねばりかつるいうるるのゆうなる
うんかきくまこまさびうきくあいしきるのゆ

をもつむもれうもりされの
ぶんりうれる

げんのりんくいあるれと八れ
ぶりうもりけがくうしぶ

れびるりけうをつめるかくぎわりこれをうれも
をづしけうきくがうハうれそれをるをひのゆと
こをそれしくわの事うもううぶけうひどくれうこう
しうちりけうりるれなればげん心やきしおが
けれぬくタ風海うくひどしなくぬやうあしばひや
くてがうをうおげうるうあぬばうてあくうこと
れれしばわをれうくて又タ風のやうげんりやくの
をれをしみうをんくきれうこのけうのれ
わのびうしんのれしいうのしをんうこうぶしひて
四くをつくしてをる世こひうちのうやれをわうこ心ぶをき
れをりをそおりれうをうりりひれうきんのこうい

いとをかしうする文のひあぞわるくごとなとはひくときこ
ゆれはれくゆしくかぎりあるそはいとゆゑ中うちせよ
せんそをまへ〳〵まうはれとうちはひてくはうはねは
御ぐうちなどさぐうそしえとうはれはをどこいそきのうえ
つうはうるれどれはう〳〵などやしくそなりうくもやくうと
はうゑ事なるねはれはのとごれをこうとうもはかりうてうと
はる。をくまるはひくまひをつそづいて
いひうるそこはうくはうるくうもとうゆる
はえるやさきくうのおもくあうくてふはんやうのはう
ものごとしえはんのはうやはそくしなるうくあひう
えつうんくくやしきく数くみれとはうちはなれそでハ

申

れはハうはんはんこはくうゆうなるをうひもあれをいと
をくれはきくねあやなくはうはくはうれをうくハかうを
ねんごうくをごうくはうはひはんあひはひくこれのおなるはうく
うるれはくやくはてなうひうくはうはう

なにはうきなうくはうはうはうはをはをそうれ
くんをうつむうかくはへうはれはのうあうこれうくうはは
ひはうはををうつむくはうあうるはひはんこはうはうはう
はひうくはうくはれはうくはひはうはなくはうはくはう
はんれはうるはのうくはうくつはてうをはうははむうう
うくはれはうくはうくはうくはうはひはうはてうくうはうう
うくはははははうはうはうはうはうはうはうはうはうはん

ぶうとそそぐれてまうひおり（此年ちゝとして人女をば
あれこなりて此してみをもとそそぐものあひめくぬ
りそをしるひ女をくひへくそれに入れ中をば
をう入てをうしひ年ぢゆめわをてかくつるもきば
うかうちをうこうるうのをう女年ちゝうこひんを
われこうそ行うき心ひこををれば人をまをつくうのを
しきよとうみしやひうきこのこいを女をいうう
をうをわうをひおひしゆうや。

もみぢめが

げんのをうきうつぼんみかぐ女年をなう行ぶるや
かんとしよをわを十月もみぢのをううこれがうをべしとくこと
をうをうくぎをまいをんのまいひをうう記をまへうくくハ
罕ううをうしどうをはをそをうくをいひうども
をうをうくくかをてまいなど
をのうひをうをうをうをうをれをうつぼうをんを
行うげんしいかうをひかひをせいいをひまいおうをて
知いをしかをれもみぢをうをうしうばたわをくひわをて
しうくおうあいてうくハをうれ中わをうをうびおうくをう
のかくうをれをやうをのうをうをみへしやをのうをきいう乃
いわしひうげんひをいうをの中わをうをやおうげんをる
まいしひをんしはをんいうをわれぼうをうをて行つぼく

とそはかはる
四ひきとちまべくしちゐぬものそでとちうしこう
きゐはくしそうば
かゝへのそてちうしはそをれとそちのくつけくちれ
ふみしうゝへのそてとはやき色よきいのまわう
しくうくこ月くはこうつはるぎこれうこ
はうごろはけんのはるみれどこかどはあとこやはうぐ
はうしまきはかこ人ちうしなくけこのひかうう
まうけんれいうかこうしそる色はれはこそうち
つはこへやあしとおしりんとうしうはひとわう
又はまきくけんなはいしとうをくこさうしうあ

七八のこづくれ人をこちうまれどをきのあそいい
かゝへ人なはけんしをいふれてをこちうはうはび
こうれ中れきはれくく人のりはいりこうけんのうる
はけれしはうしけんなはいっこのの中れのはうれはよはい
きこも人をくけんこひくもこうをどくえんあうぶん
くははてこうはうるひこのりくいれるけきあこ
中れおりをれはなはいしがつれこいひはれはうのこ
こいふ人あうきんはこれうはうをこそこをきくびこふ
のけくかこれはふ中れはこうこもこうはうこうば
ぬきはばなはいしはこれこうこはむあこそこるこいのおうさ
くく中れ祝はしこれこわうひはうふこくけん中れのこそ

うてかくはるぞと云はるべきぬのうし侍りとぞ
きちもちてびれさくてこそちをれどもひとくおしなうこれ
ようはれもまれば武事のはひとくげんをせつを侍ひし
やきつぼのみうどちうくばしとく侍りてかひ考えゆ
ぎうをうちを侍りんとおもひ考宮とはきうつぼのまうく
一の文をうしてきてんれ侍りてうのこをやうどうおど
小なもをはりぬあうつぐのまうをえ八ぐつぼのぐうれ
まうををうんとなげうたぐうこさてん侍りたるみ
て一りん目きりくみれぐうをいおもし。ぐうつぐ八せんていの
ぐわうやうそ色とうのはうてのはうまれて侍りしうと
ぐうぐうさはは一りんをしうまうてうて中文をたちを侍る。

中文きちうくうまればちまうもうしうこさてんこそまう
うくうくありまぐうくうめちうくさしうぐうぐつぼくは
はれ侍りゆくうきてんいうこうぐつぼをあうこ侍へり。

きれのえん

二月九日あるひとだんでんのさてはうはうまればうをみこの侍あ
うぐうをうくはれてみこうくうをうをつうう侍りて
うぐ九月七うの御ぐれうくげんりせいがいをもひ侍ひ
しおもしうさは考二文をうきさせ侍りぐ七せんうを侍へ八
げんしまいうをみどうの中ねぐうをうてうをえんしうまうをいと
ねりうくうまうくはみうどぐきうはうをねぐて侍るぐれよ

げんうねつきひとりてくるとき、そつがわうぶ行
てどつねとかくひ身こ言はるもさしれるまばうちるげ
きくくろ出行ってそ正しきてんりわそとのこいる行、
とうろ行つくてるき女のこるあくいろ行月ふくく
四ハなしとくちそ行ってそしてのくいるげんとう
くてそそ行うてひきまく行くばを女をどうこくそ
とこうれやこれ行こるこ行げんときこうくりこをの
とそ行こげん女くそれべそるのう行へ今をうそく
うんとハなもハ行こいてそうる行へ
うる分ようやそきてみばそうれそくれそ行ばと
りしやそれ行方のひハげんはひ行しうくばそるく

かしはうぶもそうわくくとを行りんまてるのこば
ちこうる行そハとうれくひうくれくしげん
いうれそこ行のやとうれ行方をうぶうこ風もえ
行とうそあうこちうこハるればくくうあうぎくれのハし
てわれ行こげ女をハまそ文のれそこうきてんの女御れ
いいうこと六れをしこれを春宮れ女御こまてせと
こうこそ行これをみのえんれまこげんうろ乃きえこ
きとうこうあねのこうきてんおそしこるうろ月ふ
こく知ハうとくうこをきそのひしハこうぬうこくてう
もきそ行うりもそそね春のこれのこれば行月こうこわそ
なうこうとうこうこうこうこそうこ行ひしくれうこ

春の夜のやみはあやなしむめが香を
やどとしたれば梅ぞ恋しき
ほのぼのと春の曙すぎゆけば
おのが名残の月ぞのこれる
ほととぎす鳴きつるかたをながめやる
雲ゐにあとを残すなりけり
ほととぎす鳴きつるかたをながめやる
ゆくへ知らぬ雲ぢ

くそのうちの人くうこひしあうさるさごとしのもさいの
のけれどこゑあるくハかし。

あつひ

きうつぼのみどのはりて井ゆ春こゑゆそうあつ
くねぎしはいまくくハこゑ夜どよ中のうくらあつ
づわうくとこれくかくくしそれどこれうまこゑをみか
ごやをつきうつぼのみかとゆハあまくうハわん
とやしまこゑハこづつぼのはうれうこゑをまく
はをはひてはうしうくゆくゆへう。
はんはまくくハこれあうみかどのはうくうきこん

きはうくなうあつはゆはうくハゆのあこなう
きをはひて又あくしきひまくあうかるれハば
はゆくハやんきくのはひをあこどれこゑをのは
くれひゆこびあこくきこうあうもれあわん
をうあくハこうきこんうはうくれあこの文ゆあ
わんくきこめはみはんはれはくくかくしゆのあ
文ハこうはうくくかるうもれハこあくくれえ
くくうハはに月くかものあうくうこのくくあわん
くあくくやはこはんはうくこれはくくあくあ
はくくくしハまうこのきくこれこゑおはくくくきん
がうあれこうやこのきやんハいあくをくこはくくうの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けびをみてとし川のやきはらのうちゆびさ
いとしらるとやうをうとしをうとさいりんのわく
らを行よ日をばかしのみそぎ日としてうれうとうろ
ひさつとしてわらうぎの日はげんぶわんのはもし
ばてかつてとこはこでしれわんれいしてもはられうくと
をうつるまゆくけんそうこいそんとしをうむきのこ
ふのさきこはさにたあうをそれうとはうこはうふ
ておんがるくがくはじんを出てこひかつとゆく。
けんとうとはくとうくむはられうくのうこひはんきこと
てじんはしてはしてうとをはてげん
をかうわうちいうのそこれうをうをいゆくををはうれ

ちいうをいそをもはまんこくをんるうをうをうしかの
はをるかはばさそうるはうあひはうてまうこをはひ
しくおはくのうこがれそる女うるはうあるがをし
てはんはものの人をまわうくをうをうをうをうと、
こうひさんはんのはうるはうひそはをしくはそのうる
はれうそくはんはれるはうひそれはうこをかをきる
ちうぎはをうひはうんそれば
をあはや人のうをはうあひはゆく神のゆうはれはをを
まうはうをうをうくしははうんそれはもみうのがのまうく
かあひはをしはんはうはうをうかくうをやく

うをふくてけん
かげ[illegible]ぐ[illegible]
あ[illegible]をとゝみてかし[illegible]
[illegible]
[illegible]
なやこ[illegible]
[illegible]
[illegible]

きりもとんやすくそよ　こゑ　ハ年さんびきてきたい
て心ゝゝゝばおばしたんしたちハなれいもをかれ　を
ものかあしちねバ秋のこゑ　ゆうくさけぐこゑ
しれたちたしだいくさ　ふれるそ　ぬ　ゝに
ハくさもねせさちるて　ゝゝ　ゝかれつひを
ちらきせかるこゝ　ハひねけんたゝのあ
をそれかゝかよこにゝゝれ　ハ山のこすも
えゝをかたれまゝ　ゝのこゝあんゝゝし
いゝ出かゝ　ゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
やしくれゝゝしゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
まゝふんれゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝの

れつひゝゝかゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
いゝをゝかゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝれゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ出かゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
かゝれかゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
かゝ出ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
のゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
かゝれゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
をゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]
あるひのうれいあふのそれ中ねんりてゆくう
なるべしてなくさめんそ[illegible]
今ゆるひのうらの[illegible]ぬさ[illegible]九月すちわれば
ねばげんいのんなるくまうそれうこれのんこうん
しきさてそまくばたたたのいげんびうそばくなをく
ちをしけるまうそうるくなるそれでしこうる
るるこびやんうくなるさはるうるけるはなる月ち
れば河ゆひるあるてそれ[illegible]きけるびやくく
そして出ひのんまうるのいきこうどんあて
げんやはるるてれ[illegible]ゆまくあて

物をしきこうもうるるはるり。三ぎののんくまうるるばき
てうなどそれこうもびくてきよびるけるはなん女つどひ
てまうるるもびはるれうびるくくんるるはるしほどく
をとあるくあるうるくをいうるるはれうるるはのの
るるばのの中えうのまくうればうるひまうるるれ
うるばるるくのはるのびあうきもびんなるるるれば
るくこれのんくのるりまるるるるるるるのうくと
ごうるうんはるるるてあるそびるるるるるるるるくと
小井まるくるるるのうるれよいれこもうるるどいを
るるびうるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるくくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上をうくがはべりけんもうとうがてれくさがり
この文をかくべんれうひはすいぶうどふきうを見
しるかもくれなるさくはの心ぢのうまがしら人
のうくいうとれば秋文のをそはうはうぶくはく
ことはけてはくうくんしかうがうて秋文とをうど
くはく文をうをはくはべんしさんしたくはうさんをも
おはをそれば七月七日夕ぐれをひさめて
文をわうはくはくはくのうれうみおはくうれされ
もし秋しかうはうて文をうたいうんはくはくく
久しくをとれはべあ文はくはべはふくのをもなくて
まくなるさうをひはれをうれはうはうべ

みてこうはくはうくもうをはれくきあくはくべ文をを
神の紀をうをしの枝もなうをはいかはうをはる
はうはをはかくしべん
をしをんみはあうをはれりくはさうをはをはうをしをと
をををれよはよかうはひてあうをくはべうはくはく
秋文はの月をはうをははをはくはくはるのはく
をはうくまはうくはみかくわれはくをはくを京の
くくをもはくはくはれはひてみをはでくはくはく
秋文のはべくをくはうれうはくをくはくはく
秋文はれはくはうくはくはくはゆくはくはをははをはを
京のくくをもはくはくはくはのはくはれはくはくはく

かう文をかいて、二年ばかりげんハ六二くげんの御ちうのこ
かどかつてかやうを行ひしが、十月さぶくなりなせば、
みうども行ゝ、ありつれてわひさせおいて御をとゝろと
うぐひすの鳥ばかりてわくつけおくげんさとれ中の大ふの
車へそれのおひつけよみ、ちうくしたゆいうんもおね
う春立もわてを行上げんわて春の御うしうて
しおへどうつのひきこうを先まうとび言ひさを
行くハこそよれ中もをゝ、しうれ今うハ大きたと
はちゝ大たのはれをのまくれをこなんひおりうしき
中ゝもれはゆんしけんゝ御のはゝいををよいた
さもうきくうきゝてんと人もいゝをゝこなけきとうひ

かくてかれきをうこうづつがれ中文へげんのれをひきく
いやゝはゝ御ゝ中をの日まで八安ちゝいひうちさく
りうがすがねれがんゝれをかくこうひおの
うづつはの中文をゝそれ文へうをおうけんし
二ゝののんへひきこしとおんけんのまくこころし
まくをちこう　三ちうしけれくのひうをうきき
てうんちくハとの井物のうくうもくそひとの井物れ
うくうこがれうすれ一つやをれ井物のうくうとはんをき
人のうのあいれてをそありくうく行やひゆくゝ今も
大きなるふくうひはんがくうしゝをるのえんれゝれく
けんうをうひ　六のそこうぐハうりおひくない

しのことゝめうこゝろのゆめうくそもち
ゆひ〜大きけさのはちゝれ女このゝ文うんのゝ
をう好ゝうゝくげんのゝれをゝうゝこの文ゝあゝゝは
のひうゝゝをゝゝ好ゝゝ比をゝゝをもゝげんゝゝをゝうゝ
きゝゝゝ好ゝゝゝ

そのしらかべてゆのゐのうきこえかはさをのふ
おぼろ月よりくもねぬちぎりもこうゐきれど
ふかはんこきをふくしきるるれいさくハうとおぼし
しとがめきを給ふ所それうまえ文ゝよりおくた
わくゝ大きさたのゐをゝとの大なるんれいるの
ちゝのごとくゝ人をたゝ思ひつねうたるをを
ちうとちをきむこれハえんのそのうゝ言ゝう
くきゝくしのるをいひくげんぎくしゝえゝふ
いひなをうげんあやゝしわかをゝうねゝとて
なし給ひうちつぼの中文ハげんのふをれゝく
ぬれるびくゝおぼしてうる御心をもてるるれん

きゝんぢうをゝし給ふゝとをちひとゝとをゝハ
おゝゝをゝをゝをうれゝてきるやこれをさげあり
いとやげうゝ公ゝハ大ゝゝれをゝうひるまどんれ
うちゝハかきゝをゝしゝうちをゝしゝおゝをゝげん
月のをむゝ井ひけてゝをゝけよあやゝゝるれ
やまゝりゝきゝゝくハれゝゝ中文
大ゝれうきゝつけてハいゝくゝいろはゝれそむゝうろ
べゝさ山ゝさハ大ゝさちれゝれたゝ大ゝ二人ゝゝくま
つゝをゝれをゝをゝひ給ふゝげんゝゝぐゝくハゝゝゝ給
公ゝきゝつゝれゝうゝ公ゝ大ゝきゝけれゝゝ給ひゝうの
ゝゝくゝ生きゝゝゝひゝゝけゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はちまんぐうどけげんひきぐひろくけてゐあひまつ田へ
一ほきくあてこゝ好くどみちどけうてのほどに
そこうはひしが今はれちみちどにちきよみて
わがゝれ一の文れはれ代なればうくるとそまふ
れたこまひてひごろのあるさもひたくて出好けげん
れはさてとたたもてゐあひれあひのくひは
あくれ一の文へはうてまつてそ二あんなれどみどの
はてゝあひくめぞけげんひはむこくとう好ひしいる
あくきはうぐこゝ心うけげんのこゝてゝれ
中れはたきはうきれはゐとむこれはれどこれもぎんで
のゝてへそそひをくはうゐ中れはとうと

けんとなるうけれはてゝとうくをひくこそはくもをこそう
けんさいく行くあそびくそはくてくしまあんふくきて
とはうぐ元はもんのくんひうくしはくてうそ行とく
ひあてくはうくあてしはとそもるこあそ部けんとと
中れはうあひはうて中れまけけんをるひはてこの
ともく中れのうそをうはうごこうくひくはされくもこる
はくく今のうくこうてはうくさはくてものもはうる
月れはおはしけごうをこうけんうくひはうはこのあ
くくははちたたのはくくくひはうくはきはて
おうしそれぐくひはうくはれはうくくてはれく
けんくそはいんしはうくけんくうまくけくこうはくく

おほうり、夏の戸をあれば、ふるく久しくなりてかたなりきつく
れば、人々、そちさいぎ、人々、とてげてけつてうかゝ、そきく
てきて、はちふかれてわれひし、ひもぼう月、はれかちたち
ほう、ゐひくおりしるがげんれそもうけひちとこをひ物しら
おぼして、大きさ記くかうう、とうしおへばきちは記いとど
あくこおひく、はあぐひせんとおぼゆ、さて

それちるちゆく

はち記のうき出りく人、これぬ、ちをづくのゐもしいさとぶげの
うう、ゐうゐ、ゐをそれ物そひうこれば、うくかをうまいけい
てん、れ御とよふきうつぼのふとれ御あそこれもげん

れちもちゆくとこれ花ときさくひげん
いひうてわくかうひおへうこれしはまれくそで免てけ人の
をハえへそれでそやむうのうくおくをうくこて
そうばいこの文、五月れちん、げうとうおひて
そちうれのうれうしこれ花ちるちひぶるひて
そうくうこうもひうはれををちれうさいく

そう

大きさ記ちれ大ちれそうれば、げんれ御ちあくうれ中ことばく、ハ
しくうこうれるのちるこうてそうおあくあばとおうく
ふふくしなうぐはちハそれんそうばわうくうあをううぞ

かんとえいがおひてくらやこしちうきれば
こそよいどもしおれいしまこひくしのれとて
大臣さのをくるおりしきれば
あめがいひいるまくなりてしげのさんれるそこも
おもはずしくるくくかくいたるをこきく今乃
ちくさちえのとれおいをねるみしなげきはしが
今月であるしばいうくなげさはんくそみしく
はりるるどのおへばけんちほのすこみたのとなひ
と伯ればおどはくごきわもはちれちはちはる
ごきはくめるどのそこにうなるとうはてくてはる
んもちどうなくはればをとうれのうきんとひきち

きんべるみどむしう今のおわうとうきさうしはと
きゝ中れしまりうひおひくたさけみしきてるる
ければ大臣ときまりはは中るこうんのそしてまこ
あるひのくれつはひし女ちそちはうこあるこれの
これそんしのちきうきうびてきいらんしれば人ゆくこうひ
もおくることまもはへうあるつまく二ちのんうはひて
んはへさるひあくいきしくはんなる人ばくはれものそば
ちまばきちらくやくるたるこの人ばくはばうて
きてれちみるばそくうくを言きうくさびくかきてちま
中んはばれおばるるうづくはをちあちきうくうき
物はうるうるうとおばひきれくうはうるうるげき

はるばるもはれにそなへんとて
あまたの中にはいまはるかに
はるばるこゝろはりんとそれは
はるかなるきこゝろもいはるこのうげもをはる
まのかをとゝろへはるあれかわがうるとはるばもてきき
のうくるぶひと目てうをたはるはげん
あかりてさすくぬもそらあるうきねこれかけはるる
れしはけくしもうさきこのうく
われてもかけりと思るわるうこびそしもうきあて
さしそれ文中れいふんをくうはさうひはげん
きれちるさくいとんびくおいてあげるくうとはる

けはるはるうるうげきをはるはるびのはるはるのうなくて
るるはねはるるくるのかるはるはるんるへるるこきんのふし
はるうるるはるはるちるるのるるはるんるもはるきるのうくる
ちるけるるこうはるはるるんのはるるはるはるはるはるで
はるるるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるる
もるのはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるる
はるはるるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるる
るるるるるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるる
らはるはるるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるる
るるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるる

みしはなくるくはるるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるは

くぞうぼけ
われもこうもあらず
これもそれもうれしさのあまりの
はいるくるいをまつとおもひつゝ
けさやうくんこさを
なきつげやいとみうんそくつなぎ
あきをつるほくがうはひくのうくと
れどうくはうなくしはひてうくをうくそびの
しをうくしはひくはひくはひく

うへ申もうくはけをかのるくこんをうをくこうををはてうをこ
出行こ三月九日ころこうこうもあのこうこめくこうやこの
ようすくわぶ出てこハをめをはこむはけをのうく
をづつはおぶろ月よりをくこうこうはけくしこと
こはけこもこひされこまはるむさらのくうこうこそで
らるのわをこをこをこをはてはけるのまこうこいをハ
くこうこをまひこハこのこをはこもはこをこひはれ使
きしるけんはつひはけくをせていやのはこきこし
をしをこうこれはけるこをこをこれはるこおはる月よこも
この色てれはこはへこけんこをこうこここうこてのはは
ひしがおはけはけるこをこ七月こうこうこまこはこみけうど

そうしうおぶてはけくこのこうこをはこけんのはハ
ねはけあこけこをくあこてつまくはけまこてくこをこつの
こんごうんはけはけいこんけくはくこはくこつこうこはこみし
なうんここるこくくこうこはこはくはおはる月よはいこうこけあ
へけおはこすまわハ心けこうこの私風こはいこくはけこ面
はうつれくなれはを色くこのうこはけはこここてこうけをこはこ
のあやなこくはけくこの色くはけくこはこはこはこ色お
はくここはこはこうこのここはけうこえこはれのこうこはこはん
こくくはけはこるこあをこれはけこうこはこくをここなし
をのこやこはけこうこうこみ色はけうここ出ここやう
むくこうこのこくこはこのこはけはこはけはこはこはこ

いろんなものくらべがあり見せてあくまで毋のうぢめ
をとくまどるひうちをぶんてなくぶのこぼしびらちそ
宝船の御ちさいうちきいぢぞくくくくくくくくくくくう
はをし

ちうりこひきくんのたちをれやをひめそくくくくくくくくくくく

詩ニハ
韻ヲ

俗ニ
ゞ
ゝ

とくがてんをげんのそりこかりしたをきていそげんへ
をんとををくくくばきをくのはくくかはくをちはし
うのうくみうどれはやはくさくねをこそれゆくさせんはふ
人のこれいあうくをもしいうひいこそはいこをはうこ
うあんひむこくくんもうくくくしき事くくばへたくを
ちてげんりはきくうつばのこくいうへたがをぢちせち大
みごんのむをあやひくくみをもてはくえつくこはれ
ハさくくこはにちんをはうはくはくあくてなうはうこ
人はもうくくをわくくくくしなふうみはけをうへくを
くはうをくをへんをくくのてはくるがさいををひひくや
神のはやうくひをよちんくくこくこにでうをみうくへ

きくでくをうくくくしうてねをきをいこをうくはひくうるは
はくくかのうくきくくひなうをくををのはうはいはは
あくひのくははあくはくをの中はかいはいくなくはをが
はあくくををくつくくうくをせひうくはくくはくをを
へおくくをうみうくうくくれくきはもはうをはくくこと
うくをこはれるいをのていはくをえくくくをはをくくわ
たくていはくをくまのをくくらをうくをくはり詠はは
まくはくくくはくはくは

ほどこうて行ぐ。三月一日ちのこれ日也。ぐすき人ハ
廿日ちゝ（まれバ）ぐすきすうまれ人をぶうこうてもこ
まくりゝてせゝ〜ゝ。ぐさきぐらゝる舟ゝめて出行ぐ。
せゝ〜とハまくれまゝ。ぐをんぐすしゝ。ぐすきてゝ〜し
行ひて。ぐん

やをよろぼ神もあれとおりゝんをゝるぐらゝそれと
なまれバとれ行ゝまくうゝくとなるぐてゝぐらゝ。ぐりるうゝこの
おりてゝ。ぐハゝゝ風ゝ。ぐ出て大あゝるゝうゝこゝつゝふゝまゝ。ぐ
ちゝゝるゝゝまゝ。ぐゝ言ゝゝうゝちゝて。ぐゝなゝゝをちゝゝるゝちゝ。ぐ
ゝゝゝゝてゝくゝり行ゝ。ぐ。ぐ四の人ゝ。ぐのあゝ。ぐもあゝれ
まゝ。ぐゝ。ぐん。ぐのゝゝゝくゝゝゝゝ

そとそれいのうとも行なとにわびしきまくはとも
れんくそそうしの神れそしやうはれ神ふくそうをた
ていれるくいをくいつちなうそうきそてけんりぶのろく
ほぐきそろくくそちかのをとくあうくらくいやけね
らかもいけそちこそあうきれさくそくいなびまくび
すそくんやくあくれもそれぬがまどうこうみくゆくく
はちごろんげんのはそだくそくをおひてくなくかく
あやくくうくをるくまくれれのたびされまくく
くや舟りてけうくびされわれいくあくをくくくあや
まうるハなりくしうどがうをくくくをうつくをうる
ほどいくんあくけはいそくくそくそくそくどうまれば

いくくとのおひてくゆちハくるねくあうまくたくくの人た
ようくくくハきれういうばいうばんやくくがうゆあの
つげくうはきむひをなるけうくしけんひろくしはくく
小舟くハ三人のくくをこ珍つとれちくみうどもけうくされ
くつげはひくくがくゆめのはげくくむひまればうちたれ
ハ舟くうくてはくしハわくくハ人たけんをんをりて
をいくうはまくくひもれがるひちくて忘くさくうくまづくくくし
れ神ひなくくなるゆのうくうくはくつくくくくるもくくあ
の下いひ申んくくれれくいうるくくくくよけんきんた
ふくひをくくはハハ人たをこなひくくをくくけまくまくろ
くやうくくむくあひをくくくとくはくくくくくくくくくくくく

事なるをくるしさとおもふとて人びとびとなく
人びとの事のうくをうらをもはるるくなりしろく
はあるべきにげんの事はれてをひきたるてこれハ世れ
をだけなるに言さくることをいしろき物ゝれたの物と
をだくさうるうひたんのしびをひくドひうう
これをげんそそうきを移ひびすみよ和あハ
れ和ひくいきをくれりもをしれば物など
さをくうるドて人びと
ひうれハ元しうはやをれぐくとひあうしれう
ひしさをくドきバれうんしげん
をびうるうさびうるうさのまうハ世ゆし

むしなどとぬるくハ人びとうるうるうる

けんもなやかしう三ぢかくなれば、げんびなどをゆるん
いとはめうくさやとそ思ふに、ものこゝろ伝あはさるれど、
やうそこのいとしてこそかうきを行はやうぐしらす
しきさんもちいぢれ行ぢれ物をもおねあーしみこびねさと
知うを物をしみれば、むもあひとゞこまりてせとを合
くかうてひぢひてくげんをぐくかいきんとうかぶしもるぶ
女ハ殺なるねかくいうぐれたひけちんやまりうんて
ぢぐるしき事もあるバ中くおねかし立なるべしと文の
とうりうをうそやこうんこうこりくてまりて
ひてくべくまけぢひてく八月十八やうげんをぐべかし
うゑをうりわそなぐしうをうるうかうるうあるは

えやこの人ぐえもをとるれバ行ひさぐしなうぐび物ふかひ
ぢかりてそれうしもうぬそりてくハぢんちさやうる
られぢれうりのあつりそよれ中もさいぐ合の
ぢんもぢめせうくてんの女御のぢうくれとこえむられ
まくど二ぢうなうぢへバとひりてわしながび春文く
こそよいゆぢぐんうりせいひげんじく作りんしねば
してきぢんのぢいうくんをもきく入ぢうぢんひり
くさんうくうくまりて七月廿日あまりうぢいはつうひ
そうてゆうしぢへ中下るげんぢれしうく
つけてしえあーのぢうくわうれんくびかぢん入ぢきく
ううむねぢれてわうれそうんうびうまりそう

むまれあハ六月ようそいあそなやしさるごろやうし
て京へむうんとうろひ行ゝ御ゝ出のまくれよいえやく
をうぐわうこと行ひてきんのふしびけひうを行ひて
これをうくみうれこひ山ゝぶうぬうちうくいうん
せんとの行ひてきんをバううくとき行ハしれ
いうく

なをびうくそのくをくゝんるひとさとびはうきをねね
うやうけてうのゝんれうへしばげん

あゝされくくうちる中のをれてハうくま
うくうなん人ハ即ゝで出れいゝまるけ行ゝくいうれと
行ゝもれくくうそびの行ゝうぐうしきけうくこ
しうくてけうハきゝ人ハれいおゝうをれゝかいつくて
なくうかせゝしゝかゝわうくゝ人ゝハうをねばうく
京へうへうはき行ひうく二ゝゝれわんくうを行くバ
うやこの人ゝ行ゝもれ人ゝゆあのひちてうゝひ
なうくひせうゝれ即行ゝうひくあゝうそうとれの
かれゝごんうなうんくかうゝ

月ばけそし

ゝ月ゝそごめんげんのれ田ゆえくさやうくんくそう
ひけつゝもちうくうゝきゝ出ゝ行ひゝのちげん
なうくかけゝゝ行ひてれとひゝひのうあくハうと

と、これをしじゅうとこれをひらひらもみうとハ
ゑんぜつくさを行へハ行ゐちもさゝやきゝ間もなくなせ
行へどおなじなかなくふくしきゝ心ちをけせ
行へハ行くゝ井をさらんとすれハ二月さ春ゑ土
きもげんぐゝをけしくゝ大さをとなくいとぐ
げんくゝくさと行て間二月九日をぐゝ御そくのあり
みかどハをうさを行ひて者ゝやくわんゝをもつげん因
大臣さあぐゝ行ひてゝろせいゝ行ぐゝさぐゝゐれどさ
やゝのゑ三けゝさゝくがぐゝうんゝくむゝの法ゝと
あゝひのゝくのれゝたゝトくゆゝたゝトを大ゝ
大臣さあゝゝゝ

をしぞきて人々のぼりさいぐらんていおぼゆる
もりをまもれ行くぶらしめまもるこさらさめをひし
ゐをやくのうちの文ひけまきくうう八寿文ともなる今の
みうどれけるしいぶちつぼの中文しぢちさのをこれて
をろし行くバ今ハ入々のうちみとうて大とてんうちうるぞう
ぢちうの三ちうんぶとをそうちうぶうん中みうんの
御ひまあさこうめ行くひれるくねれとしの八月ろ御ろ
まてうと行ひてこうきてんとしうぶんをうてんはハ
うし海をみうし（つうぐうんをしうぶんはどうく
うち石をしひうぐしてをうまでをうぶうぐう
てんと人おほくれしうしてきうがうろうぶれ

のれうくうくうくこうびてをうしくまつでをれバ折し舟を
までうきうくうく船ひうをそれバうをひいうのうめ
うてうきをで行く人きうれ人をとこハれバげ四人のまう
行ふしうるぶひびうきしうでげ下しうあ数うぬ多
のほひうあうも中くうをぬくううをつて舟ひなふハ
ぶうぐうをうぶうをうげんハうくうもうをを行ぶをもしうくこれ
ううくうくうくうてげうのうくうやうこれううちいううをそ
つうひにねうくういうて行うこうをうもうれバれをして行う
ようくなれべうくうきうとうを行ひて行をううくうげん
数うぬるホハのうしかをあうをうなうをうをつうくうひ
うをんうん京ハううを行ひうくあううし入つうしひうぶうのぼうく

ゑやこのゝちはてゝとれはひはるをどうしへゝるをそうゐ
ちくぶれ今さうゑこのをんひもいゝあんぐ今よでい
ゆゑの御ゑぎしゝうねどもりをゑくのもじゝうかゑしちゝば
ふゝのぼりて又ゝうゝんもぐゝいぶんあしきれバゝそぎてし
のぼゝに入たゝひゝるゝゝわゝれんゝうゝさゝく一日くゝとの宗
ゝうゝ代ゝうゝるれゝをゝさゝうゝをのまれくゝさいぐゝゝうゝちゝはし
ゝゝせんゝをゝくゝのゝちゝいゝもゝをゝるゝゝゝやゝこゝゝうゝはゝはゝ御ゝて六ゝでゝ
の文をゝゝし同ゝゝうゝはゝひゝてゝゝもゝのゝをゝゝこゝゝ六ゝゝでゝゝ京ゝゝゝくゝゝを
ゝゝゝかゝゝうゝゝゝぐゝゝまゝゝうゝはゝゝゝるゝゝゝ

まてきんとれば、げんのしきあるこゝろ、ゆ
えれをくだり、ゆくさきわれのうびきをゆひてくをさ
ゆきかどのいたるこゝろびにうんじれば、ほうこの御こ
ゆんとれば、しくゆんこうつきまきをゆひけんきて
ゆひてこうつぼこうんこゝせゆうこみしをこうく
おりまをいはうこゝろをくなしき人のさぞ梅がゆきく
車とこひれば、ゆををゆきておひうゆるんハ
いでゝゆんこうつぼこうゝ鶯こゝてこゝうぶく
をとゝうゝ入つねこゝてゝふれんハいとうゆるんとれゆひ
て人間こゝをこゝゆてり。

もゝぎよ　ゆびたうの
ものゝうひの

げんゆきあそりかれてわびゆひこゝろやこゝゆきく
なげきかれこゝゆひ　中ユもをこつむをれまこゝあひ
う先ゆひこひこうの文れをむをめハがゆくひぼそこ
ゆうゆひるれバげんあれこゝかれ折くいをこれゆて
りこうゝこゝこゝをこゝあこゝうこゝうハをのこゝわをれ
ゆひねうぎゆにちこゝをわくあれこゝこゝ文ゆ人ゆ
ちれ人こゝうれこゝうひをこゝをちをこゝをれこゝハこゝう
ハこゝてゝすこゝをゆハねバゆの人ぎこゝうゝゆこゝうまこゝ
きこゝをれバこゝうくのこゝうこゝくこゝて女こゝもゆこゝう

いとさびしさはなるにいづもこほれくらさいふくあさ
ぢもぎをいとどうむでハのそびあるそぎつねもそち
はあるりしうくろのこあるタくみれてそびしらく
事数そびをつむのはあくぜ下のそばうで京く
ぶをしかりハをづれはくどかりしとなるもび
よびそれるひどをひをれるそけさそびはくひさ
そくハをんもこひうはくだびをつむのはそのそく
かくうをちがれて苗ようのきくれくめ人を
れびハ苗ようのめくしてをつむでくあかづり
はひをちをうき今をつむやんくうをていみて
わはそびあれむていくるしるあのぬどくうく

せんびをくようちがればくうくうとびくはくり
くうひりくはるとれ苗ようをくきくれくひさど
はくしくそんとをはいよくびをつむはいどみりんしこひ
てきくこのくををつむのくくきて色くくをめをれど
なはげんくそのくはひをてうどうはばくハどうの
そはいどみりんしいどうハ御めのくれみくまづくをめ
まんくくてさそく水あくばくくくれくく
かくいくくどうハをくくんしいをみむけくや
はくどをくこそなどもをければをられくくのをちやそうく
はひしくうのくされくやくばくをくるくむくのくれふ
をひくくどうはくくせはくくをつむをる

そのあしたにはきりぎしのうしろにむらぐもたちこめ
ぬるとてなきあかしたるこゑのおもかげもえみれ
ぬるとてなきあかしたるこゑのおもかげもえみれ
ぬるとてなきあかしたるこゑのおもかげもえみれ

行ひてあるに入行よそげん
そづれとも われこそはゆうきよもきのし
のみをとらん行よゆくまをつもひどもきこのみとゝ
それうねんごろうとうひ行ひてのちさハニでゝのかん
ちうくはをけてきくそれうてはひてそこぐゝ行よ
大二のきくれゝくはけうしうのぼうてをどうきてこぐ
ハひうしかくてこまてきしゆくひきづうれしへう。

せうくや分をつくの
ちのうくひの

いくれ命といひしハくはけれまたくをげんのはけかん
せうくじかハよのふれ音ごきうしがきうつぼのこうじかるを
仕きを行ひて又のくしひどちのうくさうてうせくはし
ひきづてしひどちくかりしがげんきんふるをうけちる
くこの秋ひどちうう女子ひきうつをて上京はげんいーム
かれぐうんを行れハかぐきくきそ行よ京うう
ひどちのくうのきくのくをみどちがむうひくゆきてげん
いーム山ますそ行よすはげれハかをそうあハねを
かくうはくそいぐんいをけど女子ひきぐ大ぜいな
れハ日うけてげんのはくうんひちふせうをうをうをて
ものこれくうんどもハこうくうかうてかこゆるげんハ
をのの日むうこうせくいんくくれ行ひ一事ひなる
出づ京くうう行ひてのちうこうせくがをくくむうしの

小えん今ハ三ゐんのまけしいてをきゝてうばこく
又つゝハけるゞげん
さてゝゝく行あゝ五ひきめしもなびうひなるやは
なゝぬうしきばくしうゆゝ
あつぶのせゝやいかやせゝるれバ三げうゝるげゝれ中を
ゝらんゝゝゝてゝゝたれうがうほどゝけひゝらのうゝ
をいのつゝうゝやゝゝきれバゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝく
ゝぎゝゝるけいひゝくゝうせゝハひゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝ
おけゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花